

<自己評価1回目>

補助事業者名	社会福祉法人 揺籃会	事業項目名	特殊浴槽の整備
--------	------------	-------	---------

JKA補助事業 2025年度 自己評価書

補助事業の自己評価

作成日	2026	年	4	月	27	日	作成者	樋口 信一
-----	------	---	---	---	----	---	-----	-------

(a) 個別項目評価

●個別の評価項目について、事前計画書の達成状況等を把握し、分析・評価してください。

(1) 受益者とそのニーズ	2回目の自己評価時に評価してください。(評価様式は別用紙になります。)			採点	
(2) 事業内容	予定通り特殊浴槽を導入した。見積もり合わせもうまくいき、計画通りの納入ができた。				
事業の発展性	2回目の自己評価時に評価してください。(評価様式は別用紙になります。)			採点	
実施計画・体制	①統括責任者(全体の運用責任、機器の運用実績・効果を報告する役割)②施設長(主として使用する介護現場における利用者処遇を向上する役割)③業務課長(介護現場と看護現場とを繋ぎ心理的安全性を確保した中で連携を図り組織運営を行う役割)④介護リーダー(実際の運用場面での不都合や改善点を現場から吸い上げ改善を検討する役割、福祉機器導入効果を取りまとめ業務課長に報告する役割)⑤介護職員(日々の業務の中で福祉機器を使用したケアの効果を日々確認し報告する役割)。上記の役割を各人が認識して進めることができた			4	
(3) 達成目標	事業の実施結果	[達成値] 2026年2月導入	[達成状況] 80%	[具体的内容] 機器の納品までに予定よりも時間がゆとり当初の見通しの甘さがあった	3
	事業の成果・波及	[達成値] 23人	[達成状況] 76%	[具体的内容] 入居者の入れ替わりがあり、併設事業所の個浴(一般浴)を利用する方がいた	3
(4) 広報計画	事業の実施結果	[達成値] ①1回 ②0回 ③1回 ④1回	[達成状況] ①100% ②0% ③100% ④100%	[具体的内容] ①法人ホームページの広報ページに掲載した②エリア誌に取材に来ていただき掲載はできていない③施設内にポスターを掲示した④法人・施設でのInstagramに掲載し、全世界に発信した	3
		(5) 自己評価の体制	予定通りアンケートを実施し、評価を行った(評価の記録としてアンケート結果を添付)評価結果の法人ホームページ掲載は4月に実施した。		

(b) 総合評価

総合評価点	3
-------	---

●(a)個別項目の評価から実施状況等を振り返り、事業全体を評価してください。

(1) 事業全体についての意見・所感	計画通りに特殊浴槽を導入し、順調に古い機器と入れ替えることができ、途切れることなくサービス提供ができた。機器の操作方法も非常に簡単で運用はスムーズに行えた。
(2) 優れている点・課題、改善すべき点	完了までにエリア誌の掲載は間に合わなかった。補助事業全体を管理する者を置くことで改善できたと思われる
(3) その他アピールしたい点 是非知ってもらいたい点	今までの機器と違い身体を擦らなくて良い点、それにより入浴に伴う皮膚トラブルが軽減され時間も短縮されることにより安全性が確保されたなかで業務効率化を進めることができた。また自己評価の体制も組織内で役割分担ができており、かつ自身の役割をそれぞれが認識できておりスムーズに進めることができた。

補助事業者名	社会福祉法人 揺籃会	事業項目名	特殊浴槽の整備
--------	------------	-------	---------

JKA補助事業 2025年度 自己評価書

(c) 事業の促進・阻害要因の自己分析

- 事業の目標達成を促進した、あるいは阻害した要因について、「要因分類」(1)~(15)の「促進」または「阻害」欄に「*」を記し、要因の内容を a 欄に、阻害要因への対応あるいは今後この分析結果をどう活かすかを b 欄に具体的にご記入ください。
- 促進または阻害要因が無い場合には、(16) の欄に「*」を記してください。

事業の促進・阻害要因の自己分析					
	促進	阻害	要因分類	a. 促進または阻害要因の具体的な内容	b. 対応、今後この分析結果をどう活かすか。
内部要因	*		(1) 経費	当初見積り以外の経費以外に想定されない経費は発生しなかった	
	*		(2) 実施体制 (人員、関係機関の協力等の確保)	実施体制も関係機関の協力を得られスムーズに進んだ	
		*	(3) 資材調達 (事業実施に必要な物資等の確保)	納期がギリギリになってしまった	情報を日頃から収集し、必要物資の確保の見込みを立てる
		*	(4) 実施期間 (事業終了までに要する期間)	書類作成に時間を要した	要綱等を読みこみ事前の準備を進めていく
		*	(5) 事業運営のノウハウ (進捗管理、資金管理等)	補助事業の全体像の把握が甘かった	補助事業の全体を把握しおおよそのスケジュール感をつかんでおく
			(6) 設計仕様の変更 (主に建築)		
		*	(7) その他	事業計画では利用対象者が25名だったが実際は23名だった	今後は機器の対象かどうかを多職種で確認を進めていく
外部要因	*		(8) 受益者の規模・ニーズ	保温力の高い機器が望まれていた	利用者さんへの周知方法を増やす
			(9) 実施体制以外の団体等の協力・支援		
		*	(10) 関連法制度の変更	生産性向上に対して国が力を入れ始めた	国の考えを全職員で周知し一丸となって向かっていく
			(11) 利害関係者 (受益者以外)の要望への対応		
			(12) 災害の発生 (地震、洪水等)		
			(13) 同様の技術開発		
			(14) 競合するサービス・事業の出現		
	*	(15) その他	タウン誌が取材を快く引き受けてくれた		
			(16) 特になし		